

東アジア産エナガ亜種の形態比較

新鞍彩子（京都大学・理・動物）

エナガ *Aegithalos caudatus* は旧北区に広く分布している。そのうち亜種シマエナガ *A. c. japonicus*、亜種コウライシマエナガ *A. c. caudatus* には眉斑がなく、亜種チョウセンエナガ *A. c. magnus*、亜種エナガ *A. c. trivirgatus*、亜種キュウシュウエナガ *A. c. kiusiuensis* には眉斑がある。亜種エナガが繁殖分布する長野県で眉斑のない個体が観察されたため、この個体の形態計測値が亜種エナガと亜種シマエナガのどちらに判別されるかを調査し、昨年度の大会で報告したが、亜種エナガと亜種シマエナガ以外である可能性も残った。この検証のためには判別される可能性のある亜種についての変異を知ることが必要であるため、演者は東アジアに繁殖分布するとされる 5 亜種の地理的変異を調査することを目的に、現在までに 5 亜種 300 個体の形態計測を行い、形態的な地理的変異を調べた。

この 5 亜種のうち個体数の多い雄について、外部計測値 8 箇所を用いた正準判別分析を行ったところ、最長尾羽長の寄与率が大きい第一軸で亜種キュウシュウエナガと亜種チョウセンエナガは分かれた。しかし自然翼長、跗蹠長、嘴高の寄与率が大きい第二軸では違いがみられず、第一軸、第二軸ともに亜種コウライシマエナガは亜種シマエナガに含まれた。そこで眉斑をもつ個体を地域毎に分けたとき、嘴高、自然翼長、最長尾羽長、跗蹠長の寄与率が大きい第一軸において、ここでも亜種キュウシュウエナガと亜種チョウセンエナガが大きく分かれた。跗蹠長、自然翼長の寄与率が大きい第二軸では、韓国産と済州島産の亜種チョウセンエナガが明確に分かれた。亜種エナガに関しては、地域ごとの違いはみられなかった。眉斑のない個体でも同様に行ったところ、最長尾羽長、嘴高、自然翼長、最長風切羽長の寄与率が大きい第一軸で、サハリン以西と北海道以東がほぼ分けられた。最長尾羽長、最長風切羽長、中央尾羽長の寄与率が大きい第二軸では、中国以西と札幌周辺を除く韓国以東が明確に分離した。第一軸、第二軸ともに北方四島の個体が札幌周辺に含まれ、地理的に近い北海道東部とは分かれた。

これより、眉斑のあるものの中でも亜種エナガは地域ごとに大きな差はないが、亜種キュウシュウエナガと亜種チョウセンエナガは形態計測値で明確に判別でき、亜種チョウセンエナガの中でも朝鮮半島と済州島の個体には違いがある可能性が示唆された。亜種シマエナガと亜種コウライシマエナガについても、地域ごとの違いは大きいのではないかと考えられる。今後、これらの変異が何を意味するかについて遺伝的な解析を行うとともに、今回の結果を元に長野県産で眉斑がない個体についての検証を進めていきたい。

なお解析には、愛媛県立博物館、大阪市立自然史博物館、帯広畜産大学、京都大学総合博物館、倉敷市立自然史博物館、国立科学博物館、島根県立三瓶自然館サヒメル、鳥取県立博物館、森林総合研究所、北海道大学植物園、北海道大学苫小牧研究林、宮崎県総合博物館、山階鳥類研究所に所蔵されている標本を用いた。